

I. 「学生による授業評価2015」の概要

I-1. 目的

本学では、授業に関する学生の理解の状況や満足感・充実感等を把握することによって、教育内容や教授方法、講義資料及び学習支援システム・施設等の改善に資することを目的とし、平成17年度より自己点検・評価の一環として学生による授業評価を導入している。第11回目となる今年度は、2015年度に新規開設した科目を評価の対象とした。

以下、その量的分析結果及び自由記述の内容を報告する。

学生による授業評価は、個々の科目に対する学習者の視点からの具体的で詳細なフィードバックを得ることを企図して実施される調査である。その主な目的は、次の通りである。

- (1) **個別授業科目の改善支援**……個々の科目を受講者がどのように学習し、どう評価しているかを項目ごとに把握することにより、次の科目改訂等に際して改善すべき点の発見を容易にするような資料を提供する。
- (2) **カリキュラム全体の改善支援**……コースまたは領域、プログラム(群)における、より効果的なカリキュラム構成や水準のバランス等を検討する上での有効な資料を提供する。
- (3) **認証評価に関わる資料提供**……大学に対して社会的に強く求められている定期的な認証評価に際しての重要な資料を提供する。

しかし、一般の大学とは異なり、放送大学においては授業評価の結果をそうした目的にストレートに用いることが必ずしも容易ではない。そこには、次のような放送大学に固有のいくつかの条件と特殊事情があり、結果の利用には一定の留保が求められることになるからである。

第1に、放送大学では、収録された放送授業を4年間継続して放送する原則になっていることである。そのため、たとえ授業評価で改善点が明確に示唆されたとしても、即座にそれを改善する(つまり、評価の次年度に改訂版を収録する)ことが非常に難しいのである。

第2に、放送大学の主任講師は客員であることが多く、その場合、必ずしも科目の改訂を同一教員がするとは限らないことである。主任講師が交代すると、科目の内容や構成が変わってしまう場合があるため、前科目に対する評価は往々にして参考程度の意味しか持たないことになるのである。

第3に、放送大学は公開大学であり学部には入学試験がないこともあって、他の一般大学に比して学生集団は多様で流動的であり、そこに一定のまとまった特性を求めることは難しい。授業評価で得られた結果も他の大学よりはるかに分散が大きいことが容易に予想される。したがって、たとえ結果を得たとしても、どの層の学生をターゲットとして授業改善をしていったらよいのか、必ずしも明確ではないのである。事実、過去の数次にわたる授業調査で毎回見られることであるが、例えば、「放送授業と印刷教材はできるだけ同一の内容に」と「放送授業と印刷教材の内容が同じでは別の教材である意味がない」とは、常に同じくらい多く書かれる意見である。もちろん、そうした意見の平均や中間点を採用してもあまり意味がないことは言うまでもない。

そして、第4に、放送大学は教員の5年任期制を採っており、再任のためには5年ごとの内部審査の通過が必要とされることである。そのため、個々の教員の評価にストレートに結びつきがちな授業評価の実施に対しては、当初より慎重論も決して少なくなかった。したがって、上述した第3の特性を持つ授業評価に関しては、授業改善あるいはカリキュラム改善のためにのみ結果を用いる、という確たる合意が必要とされるのである。

I-2. 構成と内容

今回の学生による授業評価調査は、大きく分けて3つの部分からなっている。

第1は、当該科目への取組姿勢、放送授業、印刷教材、単位認定試験等について4段階で評価する評定尺度質問である。その内容は、①当該科目にどれだけ熱心に取り組んだかを示す回答者自身の自己評価と、②授業の難易度・分量、放送授業、印刷教材、通信指導・単位認定試験および全体的に見た授業評価の2つに分かれる。

第2は、当該科目のよかった点、改善すべきだと感じた点、本学の教育システム全般への意見に関する質問であり、自由に記述してもらう形態を採った。

そして、第3は回答者の属性に関する質問である。

実際に使用した調査票については239、240頁を参照されたい。

I-3. 方法と期間

評価の対象としたのは、平成27年度第1学期に本学で開講していた放送授業のうち、今年度開設した科目（開講1年目の科目）、学部58科目、大学院18科目、計76科目である（表1-1参照）。またこのような選定システムにすることで、開設後4年間継続して放送することとされている全科目が、開講期間中に必ず1回授業評価の対象とされることになる。

表 1-1 コース・プログラム別の評価対象科目数および有効回答数

【学部】					【大学院】				
コース	科目数		有効回答		プログラム	科目数		有効回答	
	平成27年度(2015)		平成27年度(2015)			平成27年度(2015)		平成27年度(2015)	
	全開設	評価対象	人数	構成比		全開設	評価対象	人数	構成比
基礎科目	6	6	642	11%	生活健康科学	5	5	304	26%
共通科目：人文系	6	6	634	11%	臨床心理学	3	3	242	21%
共通科目：社会系	2	2	195	3%	社会経営科学	1	1	44	4%
共通科目：外国語	4	4	376	6%	人文学	2	2	186	16%
生活と福祉	8	8	896	15%	情報学	1	1	28	2%
心理と教育	7	7	628	11%	自然環境科学	1	1	21	2%
社会と産業	5	5	616	10%	人間発達科学	5	5	323	28%
人間と文化	3	3	358	6%	全 体	18	18	1148	100%
情報	2	2	132	2%					
自然と環境	6	6	566	10%					
総合科目	7	7	740	13%					
夏季集中科目	2	2	118	2%					
全 体	58	58	5,901	100%					

※構成比は、四捨五入しているため、各項目を合計しても100%にならない場合がある。

調査票の配布は、これら 76 科目の全受講登録者を母集団とし、学部科目では各 250 名（登録者がそれ未満の科目は全数）、大学院科目では各 200 名（同）をそれぞれ無作為抽出して得られた学部 13,698 名、大学院 2,538 名、計 16,236 名（いずれも延べ人数）に、回答すべき科目を予め指定した上で、郵送により行なった。

また、回収も郵送により行ない、調査期間は第 1 学期単位認定試験終了後の 8 月下旬から 10 月中旬までの約 1 ヶ月半とした。有効回答数は学部 5,901 票、大学院 1,148 票、計 7,049 票であった。無記名調査ながら、有効回答率は学部 43.1%、大学院 45.2%、全体で 43.4%と、昨年度の有効回答率(2014 年度新規開設科目 学部 41.5%、大学院 46.5%、全体 41.9%)と比較すると、大学院の有効回答率は下がっているが、全体および学部の有効回答率は過去 3 年で最も高い数値となっている。

表 1 - 2 調査対象者数および有効回答率

	27年度（2015年新規開設科目）			26年度（2014年新規開設科目）			25年度（2013年新規開設科目）		
	対象者数	有効回答者数	有効回答率	対象者数	有効回答者数	有効回答率	対象者数	有効回答者数	有効回答率
学部	13,698	5,901	43.1%	12,924	5,357	41.5%	11,767	5,051	42.9%
大学院	2,538	1,148	45.2%	1,332	620	46.5%	1,874	856	45.7%
計	16,236	7,049	43.4%	14,256	5,977	41.9%	13,641	5,907	43.3%

I - 4. 時系列分析

報告書の一部に第 9 回目（平成 25 年度）以降の調査との比較を掲載した。

本調査は原則として開講 1 年目の科目を対象とするため、調査対象科目は年度ごとに異なっているという事情がある。本来ならば、時系列分析は同一の科目同士あるいは同一科目から構成されるコース（プログラム）を比較対象としてこそ、その意義が発揮されるであろう。しかし、対象科目が異なるとはいえ、年度ごとに開設された放送授業の全体的な傾向及びその方向性を見る上では参考になると思われる。

I-5. 回答者の特性

(1) 回答者の属性分布と母集団との比較

(次頁表 1-3) は、回答者の属性分布と母集団（全受講登録者）の属性分布を比較したものである。両者を比較して、属性分布が回答者と母集団で乖離していないかを検証する。

学部では、年齢階層において 20～40 歳代と 50 歳以上で顕著に異なる。20 歳代の母集団 13.8%に回答者 7.3%でマイナス 6.5%、30 歳代の母集団 17.2%に回答者 12.5%でマイナス 4.7%、40 歳代の母集団 20.9%に回答者 20.9%でマイナス 2.4%であるが、50 歳以上では逆転し、50 歳代の母集団 17.7%に回答者は 18.3%でプラス 0.6%、60 歳代の母集団 19.8%に回答者 27.6%でプラス 7.8%、70 歳代の母集団 9.4% に回答者 14.9%で 5.5%のプラスとなっている。

性別では、男性でマイナス 1.8%、女性でプラス 0.3%と若干の差が認められる。

また、学生種別では全科履修生の差異がやや大きく、母集団 72.2%に対して回答者 69.2%でマイナス 2.9%となっている。

一方、大学院は、年齢階層では 30 歳代でマイナス 3.8%、70 歳以上でプラス 3.0%とやや差異が大きく、60 歳代でプラス 5.4% と大きな差異が認められる。

性別では、男性がマイナス 0.6%、女性がマイナス 3.0%となり学部とは逆転している。

学生種別では修士選科生でマイナス 6.9%と大きく、かなりの差異がみられる。

なお、ここで比率が高いからと言って、それらの属性の回答率が高いことを意味するものでないことは留意されたい。

表 1 - 3 回答者の属性分布

【学部】

		27年度（2015年新規開設科目）			26年度（2014年新規開設科目）			25年度（2013年新規開設科目）		
		回答者	母集団 （全受講 登録者）	母集団 との差	回答者	母集団 （全受講 登録者）	母集団 との差	回答者	母集団 （全受講 登録者）	母集団 との差
性別	男性	51.2%	53.1%	▲1.8%	48.9%	51.3%	▲2.3%	51.7%	44.9%	6.9%
	女性	47.3%	46.9%	0.3%	49.5%	48.7%	0.8%	46.4%	55.1%	▲8.7%
年齢階層別	19歳以下	0.4%	1.2%	▲0.8%	0.4%	0.8%	▲0.4%	0.4%	1.0%	▲0.6%
	20～29歳	7.3%	13.8%	▲6.5%	7.8%	14.1%	▲6.3%	8.5%	12.8%	▲4.4%
	30～39歳	12.5%	17.2%	▲4.7%	13.6%	19.3%	▲5.7%	14.2%	20.2%	▲6.1%
	40～49歳	18.5%	20.9%	▲2.4%	21.1%	24.0%	▲2.9%	19.9%	24.1%	▲4.2%
	50～59歳	18.3%	17.7%	0.6%	19.5%	17.9%	1.6%	16.9%	17.0%	▲0.1%
	60～69歳	27.6%	19.8%	7.8%	25.2%	16.7%	8.5%	26.3%	17.5%	8.7%
	70歳以上	14.9%	9.4%	5.5%	11.9%	7.1%	4.9%	13.4%	7.4%	6.1%
学生種別	全科履修生	69.2%	72.2%	▲2.9%	70.5%	71.4%	▲0.9%	71.8%	68.9%	3.0%
	選科履修生	16.4%	17.8%	▲1.4%	16.5%	19.9%	▲3.4%	16.7%	22.4%	▲5.7%
	科目履修生	8.9%	8.1%	0.8%	7.7%	8.0%	▲0.3%	7.3%	8.8%	▲1.4%
人数（N）		5,901	-	-	5,357	-	-	5,051	-	-

※回答者については、無回答があるため、合計は100%にはならない。

【大学院】

		27年度（2015年新規開設科目）			26年度（2014年新規開設科目）			25年度（2013年新規開設科目）		
		回答者	母集団 （全受講 登録者）	母集団 との差	回答者	母集団 （全受講 登録者）	母集団 との差	回答者	母集団 （全受講 登録者）	母集団 との差
性別	男性	52.4%	53.0%	▲0.6%	63.5%	64.4%	▲0.9%	61.2%	60.2%	1.0%
	女性	44.0%	47.0%	▲3.0%	33.1%	35.6%	▲2.5%	35.4%	39.8%	▲4.4%
年齢階層別	20～29歳	3.7%	5.2%	▲1.5%	2.6%	3.6%	▲1.0%	3.4%	5.2%	▲1.8%
	30～39歳	10.5%	14.3%	▲3.8%	8.4%	11.8%	▲3.4%	13.8%	15.8%	▲2.1%
	40～49歳	21.3%	23.6%	▲2.3%	22.1%	23.5%	▲1.4%	22.0%	26.7%	▲4.7%
	50～59歳	26.7%	28.7%	▲1.9%	25.2%	26.7%	▲1.6%	23.8%	25.6%	▲1.8%
	60～69歳	27.0%	21.6%	5.4%	27.4%	24.5%	2.9%	24.4%	20.0%	4.4%
	70歳以上	9.6%	6.6%	3.0%	13.7%	9.8%	3.9%	11.1%	6.7%	4.4%
学生種別	修士全科生	20.1%	18.3%	1.8%	28.7%	25.5%	3.3%	27.2%	23.2%	4.1%
	修士選科生	66.5%	73.3%	▲6.9%	59.8%	66.8%	▲7.0%	59.7%	69.1%	▲9.4%
	修士科目生	9.0%	8.4%	0.6%	8.1%	7.7%	0.3%	7.6%	7.8%	▲0.2%
人数（N）		1,148	-	-	620	-	-	856	-	-

※回答者については、無回答があるため、合計は100%にはならない。

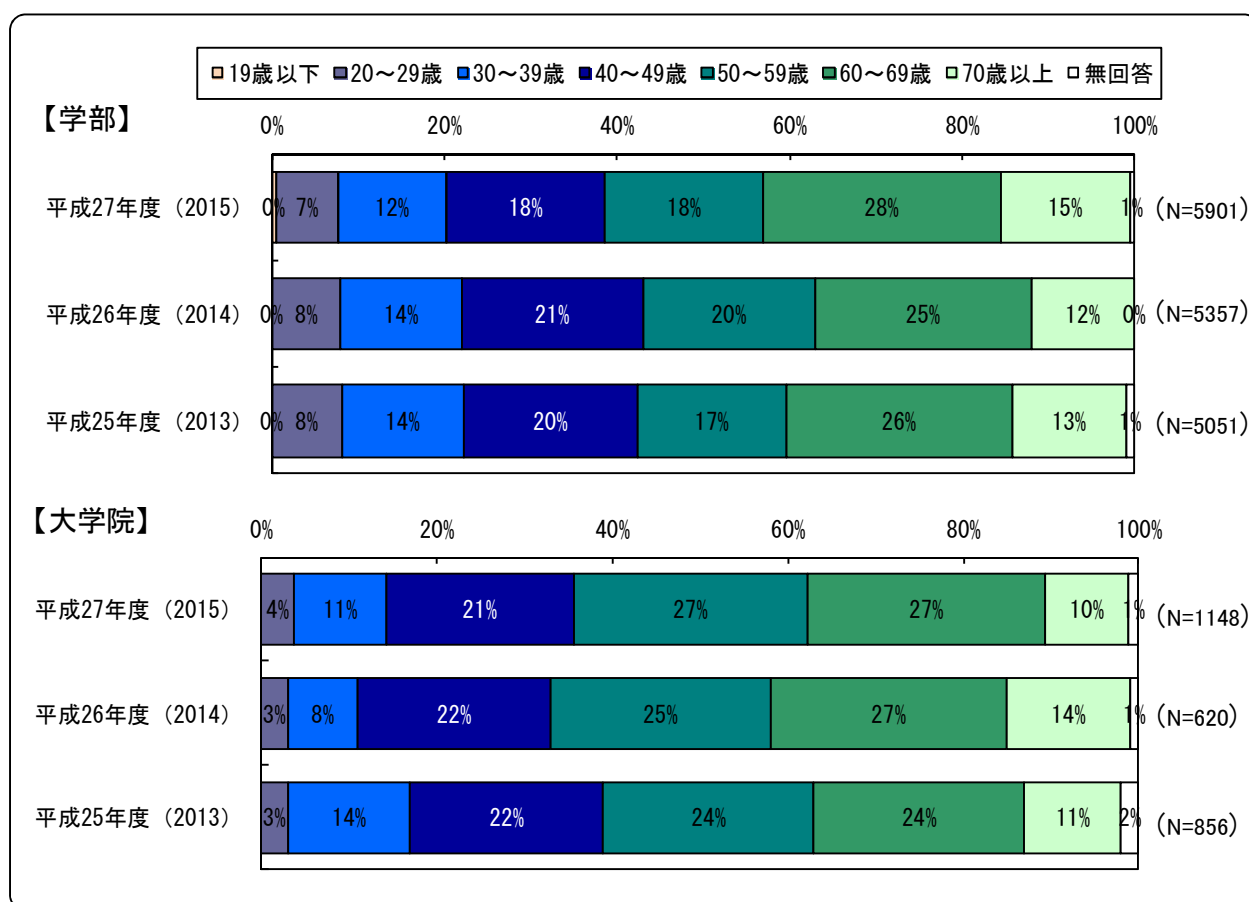
以下、今回の評価結果を分析する上で、回答者の特性からみて留意すべき点を明らかにするために、回答者の属性についてさらに見ていくことにする。

(2) 年齢階層別回答者（2015年新規開設科目）

年齢階層別に今年度（2015年新規開設科目）の回答者の分布を見ると（図1-1）、学部では40代～70歳以上が中心であり、60歳代が最も多く28%、次いで40歳代と50歳代が18%、70歳以上が15%を占める。全体の傾向は変わらないものの、前回の調査と比べると、60歳以上の割合がやや増加し、60歳未満の割合がやや減少している。

大学院でも全体的には同様の傾向を示し、40歳代～60歳代の割合が多く、50歳代と60歳代が27%と最も多く、次いで40歳代が21%となっている。また、前回の調査と比べると、40歳未満と50歳代の割合がわずかに増加した。

図1-1 年齢階層別回答者

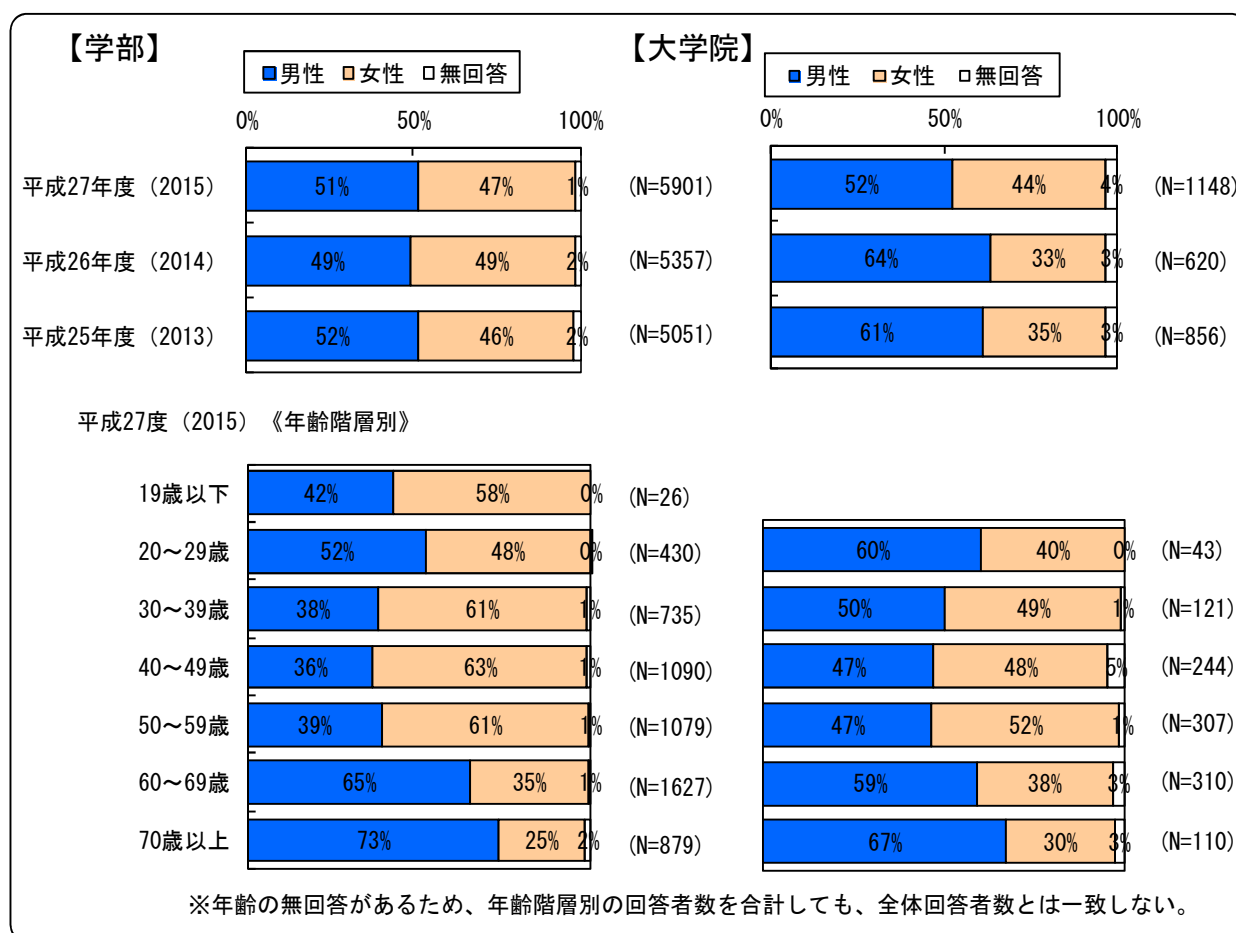


(3) 性別回答者（2015年新規開設科目）

回答者の性別（図1-2）は、学部では「男性」51%、「女性」47%となっており、昨年の調査に比べると「男性」の割合がやや増えている。また、19歳以下、30歳代、40歳代、50歳代は「男性」よりも「女性」が多い。

大学院は、「男性」52%、「女性」44%と「男性」の比率が高い。昨年までの調査と比べると「女性」の割合が増えている。また、30歳代、40歳代、50歳代は「女性」の割合がやや多くなっている。60歳以上になると、男性の割合が顕著に増加する。

図1-2 性別回答者



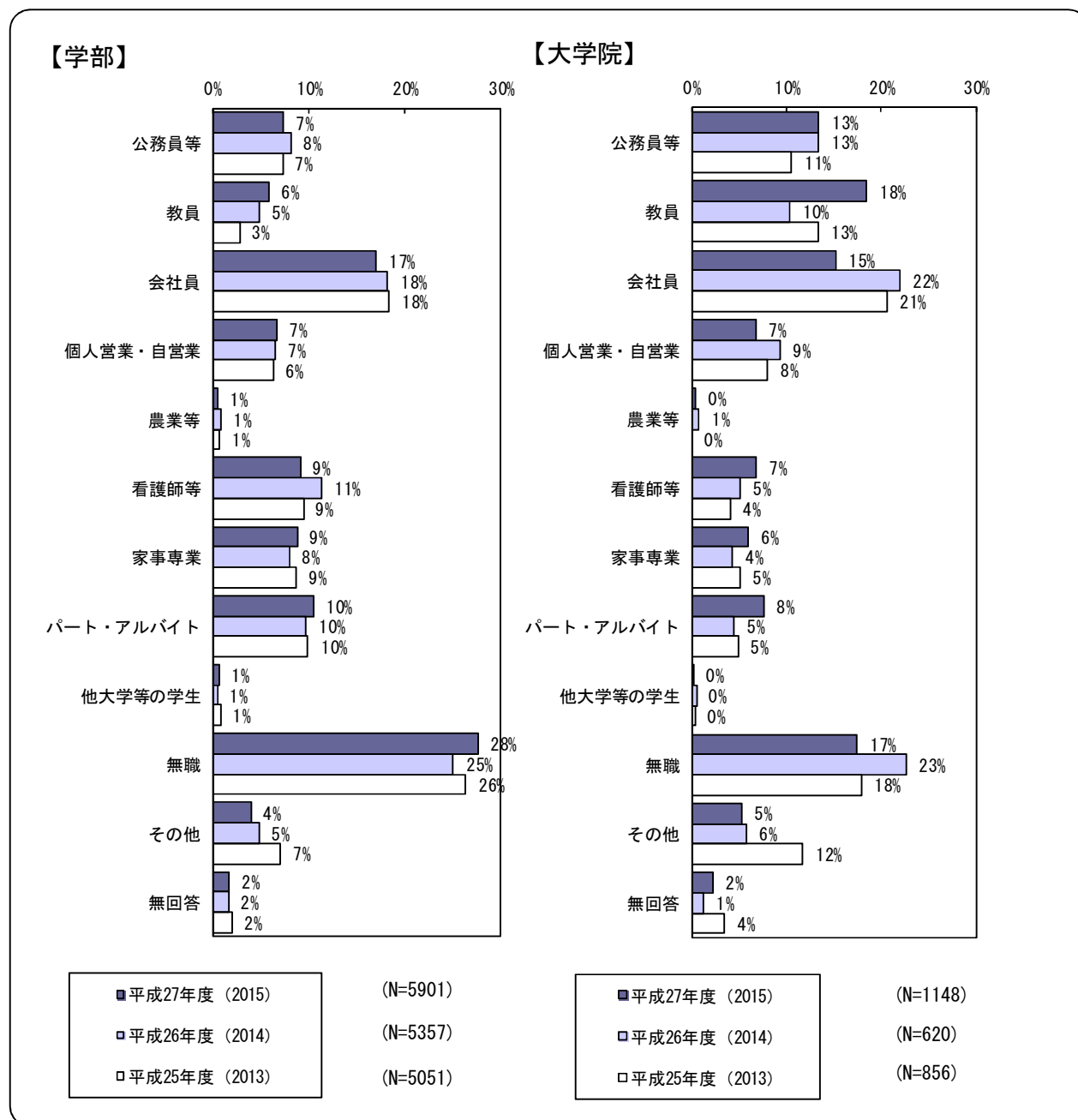
(4) 職業別回答者（2015年新規開設科目）

職業別に回答者の分布を見ると（次頁図1-3）、学部では「無職」が28%と最も多いが、有職者（パート・アルバイト含む）が全体の7割程度を占め、「会社員」17%、「パート・アルバイト」10%、「看護師等」9%となっている。時系列で見ると、昨年よりも「教員」「無職」の割合がやや増加している。

一方、大学院では「無職」は17%で、有職者で多かったのは「教員」が18%と最も多く、次いで「会社員」15%、「公務員等」13%となっており、有職者は8割程度を占める。

なお、ここでの年齢別、性別、職業別の回答者の割合は、調査対象年度の科目による相違も影響しているため、放送大学の全学生の構成や時系列変化とは必ずしも同じではないことに注意されたい。

図 1 - 3 職業別回答者

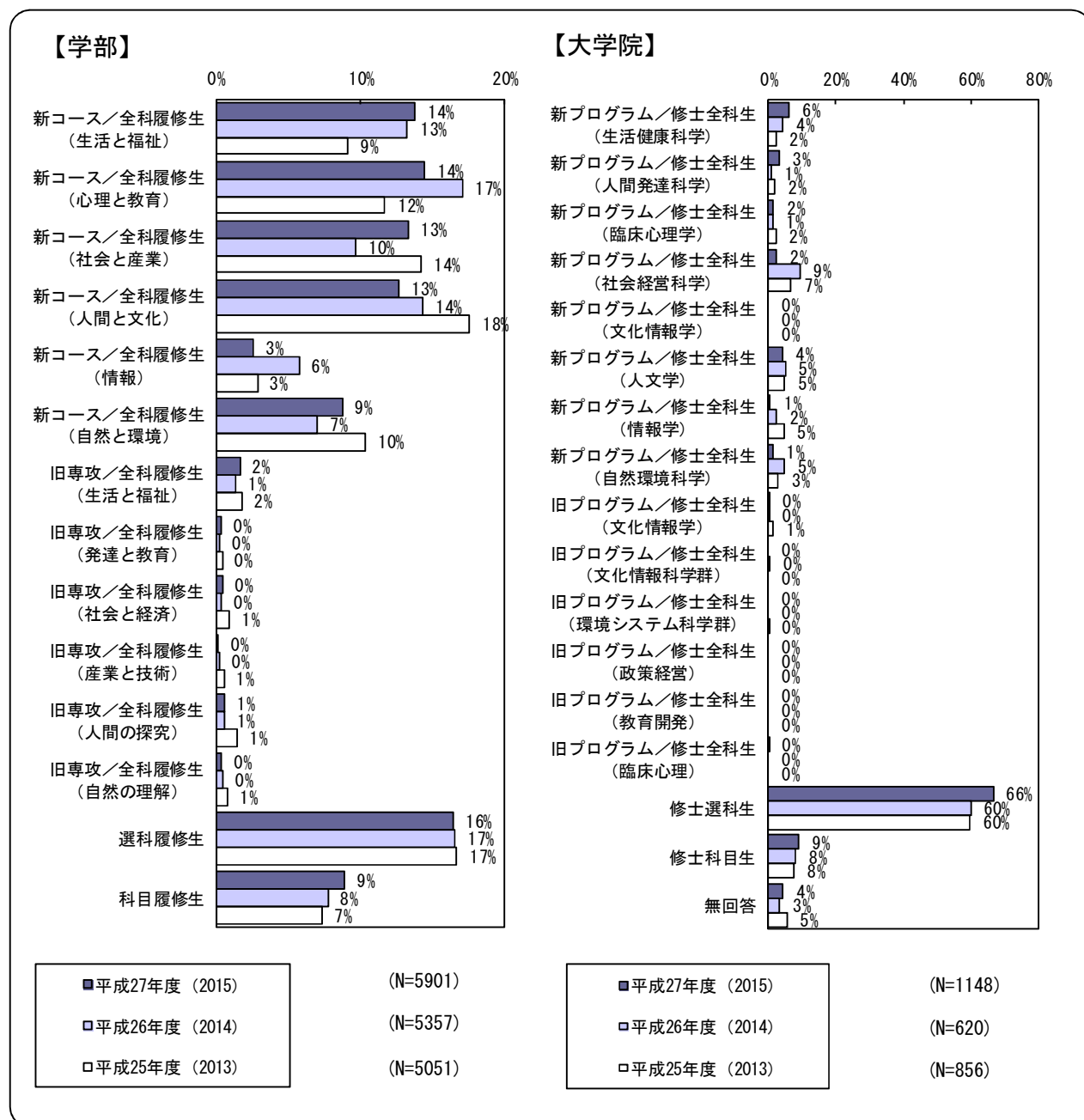


(5) 所属コース（プログラム）別回答者（2015年新規開設科目）

次に学生の所属コース（プログラム）別の分布を見ると（図1-4）、学部では全科履修生が69%を占め、そのうち新コース所属が66%、旧専攻所属が3%となっている。全科履修生の中では、新コース所属の「生活と福祉」「心理と教育」が14%、「社会と産業」「人間と文化」が13%と、「情報」3%、「自然と環境」9%を引き離して多くなっている。

大学院では修士選科生が66%を占めており、修士全科生が19%、修士科目生が9%となっている。修士全科生の所属プログラムでは「生活健康科学」が6%でやや多くなっているものの、顕著な差は見られず全体的にばらついている。

図1-4 学生の所属コース（プログラム）別回答者



I-6. 評価結果の提供と公表

I-6-1. 評価結果の提供

本授業評価は、先にも掲げたように「個別授業科目の改善支援」「カリキュラム全体の改善支援」「認証評価に関わる資料提供」という3つの大きな目的のもとに企画され、実施された。そのことを勘案した授業評価小委員会（以下「小委員会」という。）での検討の結果、得られたデータは次のように資料提供されることとなった。

- (1) 当該科目を担当した主任講師への提供……担当科目の詳細な評価結果を主任講師に提供する。担当科目の評価結果には、担当科目と比較可能な全科目平均等及び自由記述部分が含まれる。
- (2) コース主任及びプログラム・コーディネーターへの提供……全てのコース・プログラムに対して、その関係する資料一式を提供する。
- (3) 教授会及び教務委員会等関連委員会への提供……大学全体のカリキュラム編成に関しての検討や意思決定に際しての資料とするため、教授会及び各委員会に提供する。

実際に主任講師等へ提供した個別科目に関する資料の内容は、13頁～18頁の「提供資料サンプル」に示した通りである。

I-6-2. 評価結果の公表

さて、収集された授業評価の結果を授業改善の目的で用いるのはもちろんであるが、それに加えて、現在では大学の社会的責務として評価結果の公表が強く求められているところである。小委員会では、その問題に関しても詳細に検討した。その結果、以下のような合意に達し、それを基本的な方針とすることが決められた。

(1) 公表への基本姿勢

授業評価の結果については、基本的にできる限り広く社会に提示することが必要である。放送大学に課せられた社会的使命、教育体系全体における位置付け、そして納税者国民への説明責任等を勘案するならば、言うまでもなくそれが理の当然である。そこで、当面は以下に示す形態で公表していくこととする。

(2) 公表する内容

以下のデータに関して公表することとする。

- ① 調査の概要 : 授業評価の目的、方法、実施時期、調査対象者数、調査票等
- ② 回答者の概要 : 基本属性別に見た有効回答者数
- ③ 評点平均 : 全対象科目を総計した結果について、回答者の属性別、科目の分野別、メディア別等の各設問の評点平均値
- ④ 自由記述の概略 : 特徴的・代表的な記述

(3)公表の方法

(2)の内容について、放送大学ホームページ及び広報誌「On Air」紙上等で適宜公表することを基本とする。

I-7. その他

オンライン授業科目について

今年度から開設されたオンライン授業科目については、原則放送授業に準じた授業評価項目をアンケート調査することとしているが、今年度は次の理由により全体集計には入れず、「Ⅲ. 自由記述のまとめ」に当該科目の自由記述の集計等を参考情報として掲載するに留める。

- ・調査時期（8月）や方法（オンライン上での調査・集計）が異なること
- ・放送授業の評価項目の一部は調査対象にならないこと（例：印刷教材を作成していない）
- ・導入初年度であり対象科目が少ない（2科目）こと

提供資料サンプル【学部】

学部10001

2015年度学生による授業評価の調査結果【2015年度新規開設科目】（単純集計）

コース・プログラム等 ○○○○

科目名（コード） ○○○○○○(R)

(○○○○)

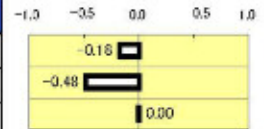
教員氏名 ○○○○

(注) 平均評点は、「あてはまる:4点」「ややあてはまる:3点」「あまりあてはまらない:2点」「あてはまらない:1点」として算出。

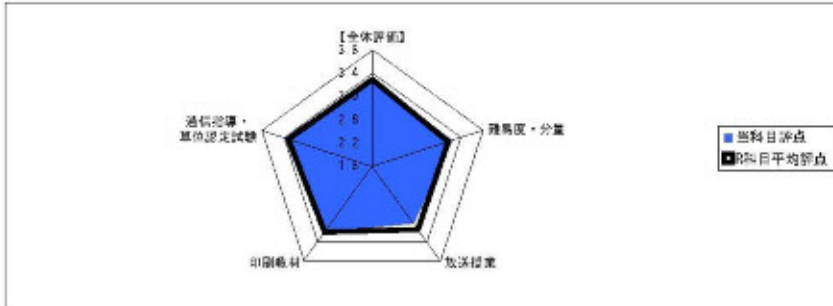
1. 取組み姿勢

	取組内容	有効回答	回答割合				平均評点		
			あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	科目別評点	全体平均評点	前期平均評点
取組姿勢	A-1 全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ	111	31%	51%	15%	3%	3.10	3.27	3.28
	A-2 放送授業を十分に視聴した	111	14%	29%	26%	32%	2.24	2.86	2.73
	A-3 印刷教材を熱心に学習した	111	46%	43%	11%	0%	3.35	3.28	3.35

【当科目評点と、R科目平均評点との差】

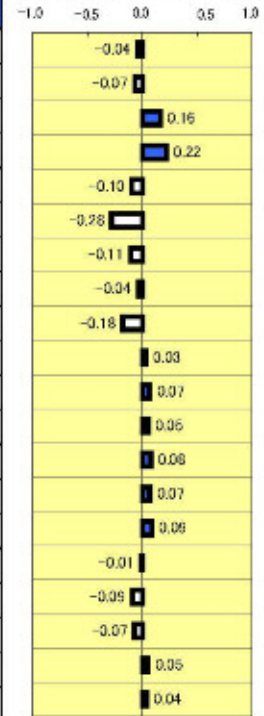


2. 授業評価



	取組内容	有効回答	回答割合				平均評点		
			あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	科目別評点	全体平均評点	前期平均評点
難易度・分量	B-1 放送授業の難易度は適切だった	94	34%	49%	9%	9%	3.09	3.18	3.13
	B-2 放送授業の内容は適切な分量であった	93	35%	44%	11%	10%	3.05	3.18	3.12
	B-3 印刷教材の難易度は適切だった	110	45%	51%	4%	1%	3.39	3.22	3.23
	B-4 印刷教材の内容は適切な分量であった	111	49%	48%	4%	0%	3.45	3.23	3.23
放送授業	B-5 講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった	86	37%	44%	8%	10%	3.08	3.22	3.18
	B-6 講師の態度が十分に伝わった	86	36%	41%	12%	12%	3.01	3.33	3.29
	B-7 放送授業は教材としてよくできていると感じた	84	33%	46%	10%	11%	3.02	3.21	3.13
	B-8 授業がなくても十分理解できる内容だと感じた	82	32%	41%	13%	13%	2.91	3.12	2.95
印刷教材	B-9 印刷教材と放送授業との内容的な関連性は適切だった	86	35%	49%	7%	9%	3.09	3.27	3.27
	B-10 印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった	109	37%	54%	8%	1%	3.27	3.20	3.23
	B-11 图表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った	106	27%	54%	18%	1%	3.08	3.10	3.01
	B-12 印刷教材は教材としてよくできていると感じた	108	41%	50%	9%	0%	3.31	3.25	3.26
単位認定の試験	B-13 通信指導のコメントは、納得のいくものだった	106	44%	53%	3%	0%	3.42	3.30	3.34
	B-14 通信指導は学習内容の理解に役立った	107	50%	44%	6%	0%	3.45	3.34	3.38
	B-15 単位認定試験の問題は、科目内容の理解度を試みるのにふさわしい内容だった	107	44%	46%	8%	2%	3.32	3.18	3.23
全体評価	B-16 授業科目内はこの科目の内容を知る上で役に立った	108	37%	52%	10%	1%	3.25	3.25	3.26
	B-17 学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった	110	36%	51%	12%	1%	3.23	3.32	3.32
	B-18 新しい知識が身につく視野が広がった	111	43%	52%	5%	0%	3.39	3.46	3.46
	B-19 この科目の内容を全体としてよく理解できた	110	35%	52%	14%	0%	3.21	3.14	3.16
	B-20 この科目の内容には全体として満足している	110	41%	50%	8%	1%	3.31	3.27	3.27

【当科目評点と、R科目平均評点との差】



3. 回答者の属性（単位：人）

学生種別	金沢理学院大学(新コース所属)					金沢理学院大学(旧所属)					合計
	経済・福祉	心理・教育	社会・健康	人間・文化	情報	経済・福祉	心理・教育	社会・健康	人間・文化	合計	
	40	5	3	3	0	5	8	0	0	2	66
											32
											6
											7
											111

性別	性別				計
	男性	女性	回答者	計	
	20	89	2	111	

年齢	年齢							回答者	計
	19歳以下	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	50～59歳		
	1	3	29	27	26	20	5	0	111

職業	職業					回答者	計					
	公務員	教員	会社員	個人事業主	無業等							
	7	2	9	4	1	52	11	9	13	1	1	111

通信指導・単位認定試験	通信指導		通信指導	単位認定試験	計
	単位認定試験	その他			
	106	4	0	1	111

単位認定のための学習方法	単位認定のための学習方法		単位認定のための学習方法	単位認定のための学習方法	計
	印刷教材	放送授業			
	3	58	42	8	111

2015年度学生による授業評価の調査結果【2015年度新規開設科目】（学生種別、通信指導提出状況・単位認定試験出席状況別クロス集計）【全体一覧】

学 科	A-1 全体として、この科目の学習に専心に取り組んだ										A-2 指定授業を十分に履修した										A-3 定期試験を専心に学習した									
	回数数		選択授業の回数割合・回数数		専心		評価		平均		回数数		選択授業の回数割合・回数数		専心		評価		平均		回数数		選択授業の回数割合・回数数		専心		評価		平均	
	4	3	4	3	2	1	割合	割合	割合	割合	4	3	2	1	割合	割合	割合	割合	割合	割合	4	3	2	1	割合	割合	割合	割合	割合	割合
合計(全体)	5901	44%	40%	12%	3%	1%	84%	3.23	5901	32%	32%	21%	1%	1%	2%	64%	2.86	5901	46%	39%	12%	2%	1%	84%	3.23	2816	2349	69%	154	87
全 界 一 新 コ ー ス	生活と福祉	813	41%	43%	12%	2%	84%	3.26	813	28%	31%	21%	1%	1%	3%	59%	2.73	813	46%	39%	11%	2%	1%	86%	3.32	335	349	9%	16	14
	心理と教育	852	40%	41%	14%	4%	81%	3.13	852	23%	29%	25%	1%	1%	2%	58%	2.72	852	42%	41%	13%	4%	1%	83%	3.22	342	346	12%	33	9
	社会と産業	784	44%	40%	13%	3%	80%	3.26	784	32%	33%	21%	1%	1%	2%	65%	2.86	784	44%	39%	14%	3%	1%	83%	3.25	342	310	9%	23	11
	人間と文化	745	43%	38%	11%	2%	86%	3.34	745	39%	34%	18%	8%	2%	72%	3.06	745	50%	35%	12%	2%	1%	84%	3.34	357	281	80%	15	12	
	情報	154	40%	45%	10%	3%	86%	3.24	154	36%	30%	24%	10%	1%	4%	68%	2.92	154	33%	45%	14%	3%	1%	83%	3.20	62	70	16%	5	1
	自然と環境	517	45%	39%	11%	3%	84%	3.30	517	33%	31%	17%	10%	4%	69%	3.01	517	42%	38%	15%	2%	3%	80%	3.24	233	202	57%	13	12	
	生活と福祉	98	31%	46%	14%	6%	77%	3.04	98	19%	30%	26%	23%	2%	4%	62%	2.46	98	37%	33%	13%	8%	4%	74%	3.07	30	45	14%	6	3
	発達と教育	22	23%	41%	27%	9%	6%	64%	2.77	22	18%	36%	27%	18%	0%	5%	2.55	22	32%	50%	18%	0%	0%	82%	3.14	5	9	6	2	0
	社会と経済	23	14%	57%	13%	7%	4%	71%	2.81	23	11%	32%	25%	21%	11%	43%	2.36	23	32%	36%	13%	7%	7%	68%	3.00	4	16	5	2	1
	産業と技術	11	27%	45%	13%	9%	0%	73%	2.91	11	18%	27%	45%	9%	0%	4%	2.55	11	36%	27%	18%	5%	2	2	64%	3.00	3	5	2	1
全 界 一 旧 専 攻	人間の探究	36	42%	33%	19%	3%	75%	3.17	36	22%	42%	14%	14%	8%	64%	2.79	36	42%	42%	11%	3%	3%	3%	83%	3.26	15	12	7	1	1
	自然の理解	24	42%	46%	13%	0%	80%	3.29	24	21%	42%	29%	8%	0%	63%	2.75	24	29%	46%	25%	0%	0%	0%	75%	3.04	10	11	3	0	0
	全専攻学生 【合計】	4084	43%	41%	12%	3%	83%	3.25	4084	32%	32%	21%	1%	1%	2%	64%	2.85	4084	44%	39%	13%	3%	1%	83%	3.26	1738	1686	50%	117	64
	選科履修生	967	50%	37%	10%	2%	87%	3.37	967	35%	33%	19%	11%	1%	68%	2.95	967	48%	39%	10%	2%	1%	1%	87%	3.34	483	362	96%	18	8
	科目履修生	527	49%	41%	9%	1%	80%	3.39	527	31%	34%	21%	1%	1%	65%	2.84	527	53%	39%	7%	0%	0%	92%	3.46	259	217	45%	5	1	
	選科履修生	519	46%	41%	10%	1%	87%	3.33	519	33%	33%	21%	1%	1%	66%	2.89	519	48%	39%	10%	1%	1%	87%	3.35	2371	2101	53%	69	43	
	科目履修生	401	33%	37%	21%	5%	70%	3.01	401	24%	30%	27%	14%	5%	54%	2.68	401	32%	39%	23%	3%	3%	71%	3.03	131	150	86%	20	14	
	選科履修生	212	22%	22%	23%	25%	8%	44%	2.44	212	19%	20%	23%	30%	8%	39%	2.30	212	21%	25%	22%	25%	7%	46%	2.44	46	47	4%	48	53
	科目履修生	46	47	4%	48	53	18		40																					

(注) 1. 「選択授業の回数割合」は、小教員以下を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合もある。
 2. 「専心評価」は、調査票の選択肢「あてはまる」と「ややあてはまる」の合計である。
 3. 評価については、選択肢「あてはまる：4点」「ややあてはまる：3点」「ややあてはまらない：2点」「あてはまらない：1点」として集計した。

提供資料サンプル【大学院】

大学院20001

2015年度学生による授業評価の調査結果【2015年度新規開設科目】（単純集計）

コース・プログラム等 ○○○○

科目名（コード） ○○○○○○

{ ○○○○ }

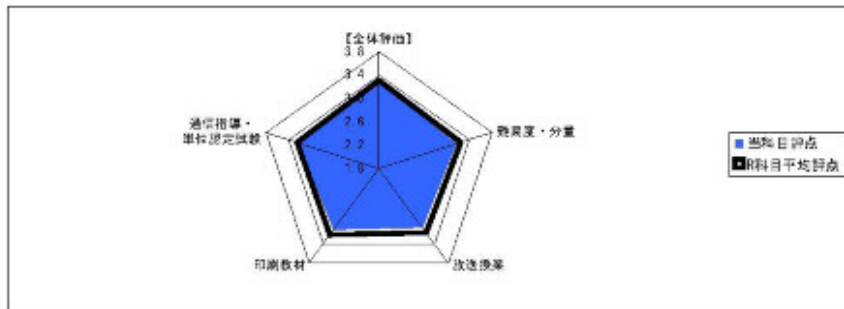
教員氏名 ○○○○

(注) 平均評点は、「あてはまる:4点」「ややあてはまる:3点」「あまりあてはまらない:2点」「あてはまらない:1点」として算出。

1. 取組み姿勢

	取組内容	有効回答	回答割合				平均評点			【当科目評点と、R科目平均評点との差】
			あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	当科目評点	全体平均評点	R科目平均評点	
取組姿勢	A-1 全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ	57	46%	47%	5%	2%	3.37	3.38	3.33	0.04
	A-2 放送授業を十分に視聴した	57	26%	35%	28%	11%	2.77	3.01	2.89	-0.12
	A-3 印刷教材を熱心に学習した	57	46%	46%	7%	2%	3.35	3.35	3.34	0.01

2. 授業評価



	取組内容	有効回答	回答割合				平均評点			【当科目評点と、R科目平均評点との差】
			あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	当科目評点	全体平均評点	R科目平均評点	
教員選・分量	B-1 放送授業の授業量は適切だった	54	43%	43%	9%	6%	3.22	3.31	3.23	-0.01
	B-2 放送授業の内容は適切な分量であった	54	37%	46%	13%	4%	3.17	3.28	3.20	-0.03
	B-3 印刷教材の授業量は適切だった	56	34%	50%	11%	5%	3.13	3.33	3.31	-0.18
	B-4 印刷教材の内容は適切な分量であった	56	43%	38%	14%	5%	3.18	3.31	3.28	-0.10
放送授業	B-5 講義の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった	52	33%	48%	15%	4%	3.10	3.23	3.14	-0.05
	B-6 講義の速度が十分に伝わった	53	42%	45%	9%	4%	3.25	3.44	3.38	-0.14
	B-7 放送授業は教材としてよくできていると感じた	54	31%	46%	15%	7%	3.02	3.23	3.14	-0.12
	B-8 録音がなくても十分理解できる内容だと感じた	50	30%	38%	16%	16%	2.82	3.11	2.96	-0.14
印刷教材	B-9 印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった	52	40%	48%	10%	2%	3.27	3.28	3.27	0.00
	B-10 印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった	55	27%	51%	18%	4%	3.02	3.23	3.22	-0.20
	B-11 図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った	54	26%	46%	24%	4%	2.94	3.14	3.09	-0.14
	B-12 印刷教材は教材としてよくできていると感じた	55	40%	38%	18%	4%	3.15	3.26	3.25	-0.10
通信指導・単位認定試験	B-13 通信指導のコメントは、納得のいくものだった	53	36%	51%	13%	0%	3.23	3.30	3.24	-0.02
	B-14 通信指導は学習内容の理解に役立った	54	35%	56%	7%	2%	3.24	3.31	3.30	-0.06
	B-15 単位認定試験の問題は、科目内容の理解度をはかるのにふさわしい内容だった	52	38%	48%	12%	2%	3.23	3.21	3.20	0.03
全体評価	B-16 授業科目自体はこの科目の内容を知る上で役に立った	55	47%	35%	15%	4%	3.25	3.28	3.29	-0.04
	B-17 学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった	55	51%	36%	9%	4%	3.35	3.42	3.37	-0.02
	B-18 新しい知識が身につく視野が広がった	56	68%	25%	4%	4%	3.57	3.52	3.46	0.11
	B-19 この科目の内容を全体としてよく理解できた	56	36%	43%	16%	5%	3.09	3.25	3.19	-0.10
	B-20 この科目の内容には全体として満足している	56	43%	41%	11%	5%	3.21	3.32	3.27	-0.05

3. 回答者の属性 (単位: 人)

学生属性	修士全科目(新プログラム設置)										修士全科目(旧プログラム設置)					修士全科目【小計】
	経済学	人間文化学	健康心理学	社会心理学	人文学	情報学	自然環境学	文化情報学	文化情報学	環境システム学	政策学	経営学	臨床心理学	修士全科目	修士全科目	
性別	15	2	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	19
年齢	20	35	2	5	7	18	2	2	0	18	8	1	1	1	1	57
職業	3	10	7	3	0	18	2	2	0	4	7	1	1	1	1	57
通信指導・単位認定試験	48	6	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	57

Ⅱ. 次の点について、ご自由にお書きください。

(1) この科目を受講してよかったと思う点をお書きください。

(2) この科目を受講して改善すべきだと感じた点をお書きください。

(3) この科目に限らず、本学の教育内容や教育方法等についてご意見や感想があれば、どんなことでも結構ですので、ご自由にお書きください。

Ⅲ. この科目の通信指導と単位認定試験についてお答えください。(あてはまる番号に○を付けてください。)

1. 通信指導を提出し、単位認定試験を受験した。
2. 通信指導を提出したが、単位認定試験は受験しなかった。
3. 通信指導を提出しなかった。

Ⅳ. あなたご自身についてお答えください。(あてはまる番号にそれぞれ○を付けてください。)

(1) 学生種別	〔修士全科生 新プログラム所属の方〕 1. 生活健康科学 2. 人間発達科学 3. 臨床心理学 4. 社会経営科学 5. 人文学 6. 情報学 7. 自然環境科学 〔修士全科生 旧プログラム所属の方〕 8. 文化情報学 9. 文化情報科学群 10. 環境システム科学群 11. 政策経営 12. 教育開発 13. 臨床心理 〔修士選科生・修士科目生〕 14. 修士選科生 15. 修士科目生
(2) 性別	1. 男性 2. 女性
(3) 年齢	1. 19歳以下 2. 20～29歳 3. 30～39歳 4. 40～49歳 5. 50～59歳 6. 60～69歳 7. 70歳以上
(4) 職業	1. 公務員等 2. 教員 3. 会社員 4. 個人営業・自営業 5. 農業等 6. 看護師等 7. 家事専業 8. パート・アルバイト 9. 他大学等の学生 10. 無職 11. その他 ()

どうもありがとうございました。